

# 南の風 340

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

学ぶプレーの全体像とは、ドリブルドライブモーションオフェンスでいえば、ドリブルスクリーンのやり方、攻めるポイント、直接プレーに関わらないプレーヤーの役割等、**5人の基本的な動き方**のことです。コーチはドリブルスクリーンから始めて、ディフェンスの動きに対応した5人の攻め方を選手に示します。

始めに選手に全体の動き（ダミーディフェンスを入れた5人の動き方）を説明します。

次に、ドリブルスクリーンによるアドバンテージの作り方を提示します。そしてドリブルスクリーンに関わる2on2と他の味方3人の動きを連動させます。一回の攻めがうまくいかなかった時の二の矢、三の矢もオンザコートで指示したり、選手に考えさせたり（「こう動けばここが空くよね。」「ディフェンスが遅れていれば1on1が可能だよね。」等）します。

このように全体像をうつし、「このハーフオフェンスの5人ここまで考えてやるんだよ。」と選手に着地点を再説します。実際にスクリーンでやるときに大事なものは「できた、できない」ではなく、プレー中のアドバンテージのつくり方や、何処にスペースができるかに気づくことです。

さらに大切なことは、1on1を含めたオプションプレーはいつでも自分の判断で挑戦していいことを告げることです。この『自分の判断の基準』となるものは、**場面、場面でアドバンテージが取れているかどうか**に気づくことです。アドバンテージが取れているというのは、ディフェンスが遅れているとか、先読みしてオーバーディフェンスしてくるとか、スペースが空いたということです。

例えば

- ①ドリブルスクリーンを試みたとき、ボールマンディフェンスがコースチェックにきた場合は、ロールターンしてドライブで攻める。
- ②ドリブルスクリーンにオフボールマンディフェンスが完全に掛かったとき、ボールを受けたレシーバー（ボールの受け手）は、いくつかのアドバンテージを選択して攻める。
  - ・自分がノーマークならドライブで攻め、アウトナンバーをつくる。
  - ・ディフェンスがスイッチしてくるなら、スクリーナーのダイブに合わせる。
  - ・2on2以外の3人のうち、誰かがスペースに飛び込んだらすかさずパスで合わせる。

といった具合です。もちろん他にもオプションプレーは考えられます。

こうして状況に応じて判断力を磨くことは、ミニバスプレーヤーの将来に向けて欠くことのできないことだと思います。再度いいますが、ここでは選手が上手くできるかどうかではなく、コーチが『**選手にプレゼンすること**』が大事です。「こうやって攻めるんだ」、「ディフェンスの動きを視ることが大切なんだ」ということを体感させます。そして習慣化してゲームで挑戦させるのです。

但し練習の過程でドリブルスクリーンが上手くできなければ、ピックアップして指導します。ドリブルの突き方やボールの受け渡し、ドリブルスクリーンの正しい掛け方などを確認します。その際もコーチは常に全体の動きを意識させながら取り組むようにすることが大切です。